

昭和南海地震

73年前の昭和21年(1946)12月21日4時19分頃、南海地震が発生しました。四国では太平洋側だけでなく、瀬戸内海側でもさまざまな被害が起こりました。香川県東かがわ市と高知県須崎市の例をご紹介します。

■地盤沈下による被害(香川県東かがわ市)

香川県内では昭和南海地震により死者52人、負傷者273人、家屋の全壊608戸、半壊2,409戸などの被害が出ましたが、大川郡では地盤沈下に見舞われました。白鳥町(現東かがわ市)では白鳥の松原が浸蝕され、東部の新川流域の耕地も低地と化し、海水の浸入を見るに至りました。その後は排水不良に悩まされ、数十ミリの降雨でも田畑の湛水が甚だしく、住居は床下浸水が常態化しました。白鳥の松原周辺では、昭和36年(1961)9月の第二室戸台風及び10月の集中豪雨でも250haが水没し、民家はほとんど床上浸水となりました。昭和38年に県営白鳥湛水防除事業が採択、施工され、竣工碑が建立されています。<香川県農林部編「農林業の石碑」1981年、高松地方気象台編「香川県気象災害誌」1966年、四国地方経済復興開発委員会編「四国地方地盤変動調査報告書第九集」1951年>



■津波による被害(高知県須崎市)

須崎市では地震発生から約10分後に津波の第一波が襲来し、その後2時間半くらいに津波が6、7回、20分ほどの周期で襲来したとされています。特に第三波が大きく、波高は最高5mと推定されています。この津波で特に被害が大きかった地区は、須崎市街地の堀川以北で、予期しなかった古倉方面(現在の木材工業団地)からの津波侵入、避難の遅れ、流木が避難進路を塞いだことなどが被害を大きくしたと考えられています。須崎市の被害は死者58人、行方不明者3人、負傷者140人、家屋の全壊198戸、半壊563戸、流失168戸、船舶の流失683隻などに及びました。須崎八幡宮に南海大地震遭難者追悼之碑が建立されています。<須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974年、同「須崎市史平成26年編」2015年、須崎史談会「須崎史談第25号(南海大震災回顧特集号)」1976年など>

